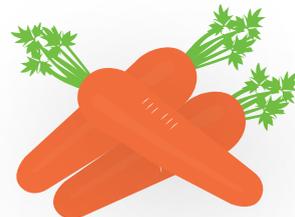


家庭菜園相談室

今月の
テーマ

上手に発芽すれば、 ニンジン栽培は8割成功!



ニンジンは、冷涼な気候を好み、夏まきは暑さと乾燥で発芽が悪いので、発芽を揃えるのが栽培のコツ!

ニンジンは、β-カロテンやリコピンをたくさん含んだ健康野菜です。以前はニンジン臭が強く大人でも嫌う人が多かったのですが、今では、子どもの好きな野菜のベストテンに入るほどおいしくなっています。最近では、収穫までの期間が短く、作りやすい品種も多くあります。サラダ感覚で食べられるミニニンジンも人気です。

おすすめ 品種

- ペーターリッチ(サカタのタネ):ジュースにしても、サラダにしてもくせがなく、甘くおいしい品種です。
- 向陽二号(タキイ種苗):形がよく大変作りやすく、春播き・夏播きのどちらも可能な品種です。
- 恋ごころ(タキイ種苗):ジュースやサラダなど生食にも最適です。

畑の準備 : 種を播く2~3週間前に完熟堆肥2^{kg}/m²、苦土石灰150^g/m²を施してよく耕します。1週間前には化成肥料(畑作名人 N-P-K=13-13-13など)100^g/m²を施します。

種まき : 幅60~70^{cm}、高さ10^{cm}の畝を作ります。黒マルチを張ると雑草が繁茂するのを抑えることができます。
※発芽を揃えるために、土が湿る雨後にマルチを張るといいです。タネを播く前日に、畝に水をたっぷり掛けて水分を確保しておきます。
マルチに穴を開けたところにピンの底などで10~15^{cm}間隔にクボミをつけて、1カ所に4~5粒の種を播き、1^{cm}ほど土をかけて、手のひらで軽く押えます。
条播きの場合は、条間20~40^{cm}2条播きとし、深さ1~2^{cm}の播きすじを付けます。種は、1~2^{cm}間隔で播きます。1^{cm}ほど土をかけて軽く押えます。
※ニンジンは、好光性種子なので覆土が多すぎると発芽が悪くなるので注意します。
畝に不織布(ベタ掛け)をかけた上から水をたっぷりかけます。
※雨が降らないようでしたら、種を播いて発芽するまで約1週間は毎日水やりをします。不織布は発芽が揃うまで掛けておいても差し支えありません。乾燥防止に籾殻を撒くことも良いです。

間引き : 子葉が展開したら1回目の間引きを行います。2回目の間引きは本葉2~3枚の頃に行い、隣の株と葉の先端が触れ合う程度に間引きします。3回目は本葉4~6枚の頃、株と株の間隔を10~15^{cm}程度にします。マルチ栽培では、本葉4~6枚の頃に1本立ちにします。間引いたニンジンは、そのままサラダや天ぷらに!

追肥 : 3回目の間引きをした後、追肥をします。化成肥料(畑作名人などN-P-K=13-13-13)30~50^g/m²を条間または畝の肩に撒きます。マルチ栽培の場合は、株元から離れたところに棒で、マルチに穴を開けてその中に落とします。

中耕・土寄せ : 追肥した後、土の表面を削るように(除草を兼ねながら)軽く耕し株元に土寄せします。土寄せが足りないとニンジンの首が緑(青首)になり見た目が悪くなります。

病害虫 : 葉が茂ってくると、キアゲハの幼虫が葉を食べて、軸だけ残して丸坊主にしてしまいます。よく見て回り、捕殺します。

収穫 : 収穫は、首のあたりが張ってきたら収穫適期です。大きく育ったものから間引き収穫していきます。
五寸ニンジンは、播種から110~130日程度で収穫です。収穫が遅れると、根が裂けてしまうことがあります。
収穫適期がどうかかわからないときは、何本か抜いてみて判断してください。
秋作では、そのまま畑に置いて土寄せを多めに掛けたり、抜いて土に埋め込んで保存します。

家庭菜園に関する相談は、営農経済センターのTAC(タック)までご連絡ください。